

日 時 : 6月28日(土) 13:20~14:00
会 場 : 2階ホール
配信方法 : Zoom ウェビナー

座 長

杉山 圭三 愛媛県立中央病院 総合診療科部長・愛媛県へき地医療支援機構 専任担当者

演 者

白石 裕子 自治医科大学 地域医療学センター 総合診療部門・
地域医療人材育成部門 助教

「総合診療のやさしい未来図 ～地域で、暮らしとともにある医療を～」

大会長講演

総合診療のやさしい未来図～地域で、暮らしとともにある医療を～

日	時	6月28日(土) 13:20～14:00
座	長	杉山圭三(愛媛県立中央病院 総合診療科部長・愛媛県へき地医療支援機構 専任担当者)
演	者	白石裕子(自治医科大学 地域医療学センター総合診療部門・ 地域医療人材育成部門 助教)

人口減少や高齢化、医療資源の偏在が進行する中、地域に根ざした総合診療の果たす役割はますます重要となっています。20世紀末からの20年間、私は医師として、そして母として4子を育てながら、隠岐という日本海の離島で過ごしました。離島は、ひと、もの、お金などの限られた環境で、急性期対応、救急搬送、慢性期管理、お産からお看取りまで、”いつでも、何でも、自分でみる”、ライフステージ全体にわたる総合診療が求められます。「どうしたら、この人の暮らしに合った医療ができるのか」そんな問いに背中を押されながら、医療と暮らしのすきまを埋めていく日々でした。島の皆さんの大きな愛で、子供たちも自らも、育てていただいたことは言うまでもなく、島で過ごした時間と経験は一生の宝物となっています。子育てが一段落して自治医科大学に戻り、大学総合診療内科の外来診療と学生教育、ひばりクリニックでの重症心身障害を持つ方や終末期の訪問診療のほか、学位取得後は医学生・卒業生のキャリア形成や、地域での総合診療医育成に関する研究に従事しています。多職種連携、医療・介護・福祉の協働、住民との信頼関係構築など、現場で役立つ能力は複雑性や柔軟性も含み、それらは地域でも大学でも共通して重要なスキルであることを改めて実感しています。医療という不確実に変動する予測困難な世界で、あらゆる状況下で真摯な対応を継続するには、チーム作り、そして受援力も重要であることも学びました。私たちはWorkとLife、どちらも多忙で365日戦いつづけることは困難です。実践と教育・研究を往復する中で見えてきたのは、単なる「総合力」にとどまらない、環境適応性・人間関係調整力・システム思考を含む総合診療の価値です。本学会を通じて、地域医療における総合診療の教育的・臨床的意義を再確認し、総合診療のやさしい未来図を皆さまと共に描くひとときになれば幸いです。

【略歴】

平成6年3月	自治医科大学医学部卒業
平成6年4月	初期臨床研修
平成10年4月	へき地勤務、隠岐派遣・西ノ島町国民健康保険浦郷診療所長
平成17年4月	隠岐広域連合立隠岐島前病院小児科長・内科医長、(兼務)
平成31年4月	島根県医療政策課 医療専門幹、自治医科大学義務明け後研修
令和2年4月	自治医科大学 地域医療学センター総合診療部門・地域医療人材育成部門 助教(現任)

【受賞歴】

平成27年	第2回やぶ医者大賞(兵庫県養父市)
平成29年	2017年度へき地医療功労賞
令和4年	集中医療大賞高久史磨特別賞